

Mini piano concert

✚ Section I

1. F.F.Chopin *Fantaisie-Impromptu op.66 cis-moll*
1834年作曲 (24歳)
2. F.F.Chopin *Etude op.10-3 "Chanson de l'adieu" E-dur*
1832年作曲 (22歳)
3. F.Liszt *Liebesträume Nr.3 S.298 As-dur*
1845年作曲 (33歳), 1850年ピアノ独奏用編曲 (38歳)

-Pause-

✚ Section II

1. F.F.Chopin *Nocturne op.9-2 es-moll*
1831年作曲 (21歳)
2. L.v.Beethoven *Sonate op.27-2 "Mondschein" 1st mov. cis-moll*
1801年作曲 (30歳)
3. L.v.Beethoven *Sonate op.13 "Pathétique" 2nd mov. As-dur*
1798-99年作曲 (27-28歳)
4. W.A.Mozart *Sonate K.311(284c) 2nd mov. G-dur*
1777年作曲 (21歳)
5. W.A.Mozart *Sonate K.310(300d) 1st mov. a-moll*
1778年作曲 (22歳)

-Ende-

Minikoncert für Klavier

—作曲家 (生年, 没年) 出身地—

- Frédéric François Chopin (1810.3.1–1849.10.17 39歳) Żelazowa Wola
- Franz Liszt (1811.10.22–1886.7.31 74歳) Raiding
- Ludwig van Beethoven (1770.12.16–1827.3.26 56歳) Bonn
- Wolfgang Amadeus Mozart (1756.1.27–1791.12.5 35歳) Salzburg

✧ ふたことみこと

年甲斐もなく、学生たちの学園祭でミニコンサートを開いてみる気になりました。それというのも、当キャンパスにはピアノのサークルが存在しないのです。なので、学生達によるピアノ・コンサートはありません。赴任して、かれこれ経ちますが、学生主導でサークルが出来る気配はなさそうです。

私自身、学生時代には、大学・大学院と9年にわたり「ピアノ愛好会」というサークルに所属し、定期コンサート・音楽談義・懇親会・レクリエーション等、楽しく過ごしました。音大ピアノ科の学生や近隣のピアノ講師、他大学の同様なサークルとの交流などもあり、卒業後の今も集まってOBコンサートが定期的に開かれています。現役最後の頃は「大御所・ご隠居などと呼ばれ「お前は一体いつまで居座るつもりか」と煙たがられていたのが良い思い出です。現役最終年は10歳年下の新入生会員の存在に衝撃が走りました。

当大学には門限(!)があります。「365日24時間何時でもオープン、盆も正月も夜中も誰かいる」理工系の文化にいた身としては、私大文系の門限の存在は驚愕です。放課後の校舎内サークル活動にも影響があるでしょう。音楽系のサークルは騒音公害とも無縁でいられないため、防音設備がないとなかなか活動が難しいという面もあるでしょうが、切っ掛けが得られれば活動の端緒になるかもしれません。まあそんなわけで、コンサートが学生たちの呼び水になればよいかと思った次第です。……嘘です。弾いてみたかったです。

✧ 作品解説っぽいことを書いてみたいが多分無理だ

✚ **Section I** : ショパン作曲の2曲はよく知られた名曲で、ご存じの方が多いでしょう。1曲目はショパンの「自分の死後、燃やして処分して」という遺言にそむき1855年に出版されました。そんな遺言せずに自分で燃やせばいいのに、結局残して欲しかったってことですよ。2曲目はショパンが「生涯二度とこんな美しい旋律を見つけられない」と自画自賛した曲です。20代前半、若気の至りで言っちゃった？ リストはピアノの魔術師と呼ばれた程、超絶技巧の持ち主でした。自らの技術を見せるためか、作曲した多くは技巧的過ぎて難曲ばかり。弾きこなせた際の努力に見合う評価も得られにくい気がします。そんな中、美しい旋律の曲を1つ頑張ってみましょう。

✚ **Section II** : 優しい曲4つ続けて穏やかに。単に自分が癒やされたいだけです。ショパンの夜想曲で最も有名な曲に続き、私がピアノ曲中最も好きなベートーベンのソナタ2曲。そして、優しく口ずさめる可愛らしいモーツァルトのソナタです。しかし、静かな曲は上手く弾けず、癒やされるどころかストレスがたまる一方です。最後は、長調の曲を多く手がけた陽気な男、モーツァルトの数少ない短調の名曲。哀愁と憂いに満ちた中、所々に格好良い旋律があらわれます。といったところで、やっぱ解説にはなってないな。

✚ **おわりに** : 200年経っても愛され続ける曲を書くというのは凄い！クラシックっていいですね。帰宅後は是非、本物の名演を聴いて癒やされて下さい。